

●●暮らしたの広場●●

がん
克服へ
 [5]
 工藤 明敏

■乳がん編



乳腺に起るい くつもの 変化や状態に対し

乳腺の良性疾患

今回は外来でよく見かける乳腺の良性疾患について説明します。

1) 乳腺症 乳腺外来を受診したときに、「乳腺症です」と言われた方は多いと思いま

区別が付きにくい場合も

て総括的に付けられた病名で、乳腺に正常とは違った変化がみられます。病気というより加齢に伴う変化と理解してください。

主な症状は、乳腺が大きさをぞろぞろで境界がはっきりしない平らな硬いしこりとして触れます。時には月経周期に合わせて痛むこともあり、乳汁分泌がみられることもあります。

乳がんとは関係ありませんが、乳がんと同様に区別が付きにくい場合もあるため、乳がんと同じ検査を行います。

2) 線維腺腫 思春期から30歳代にみられる良性のしこりです。丸く硬くて良く動き、痛みはなく切除する必要はありません。閉経後は小さくなることが多い。

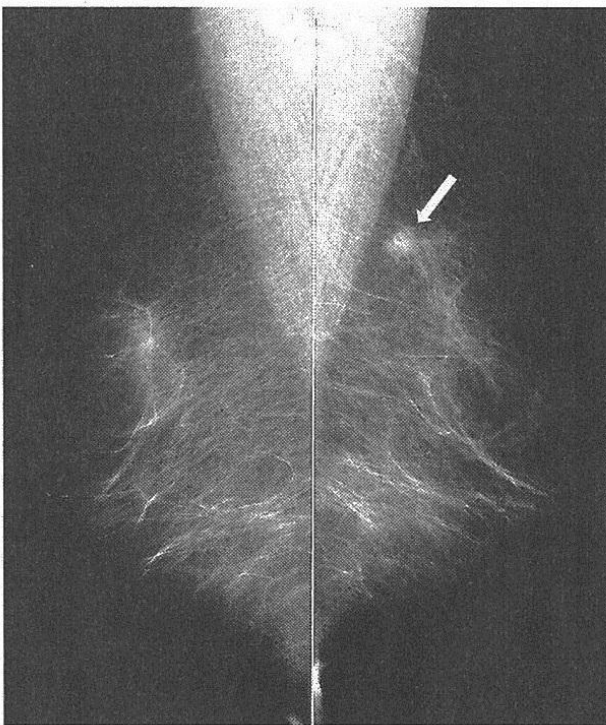
しかし、急に大きくなる場合は、線維腺腫と遺伝子が似ている葉状腫瘍のことがあります。

切除が必要です。葉状腫瘍が著しく急速に増大する場合は悪性のことがあり、肺や胸膜に転移することがあります。

3) 授乳期乳腺炎 乳汁のうっ滞(たまり)や細菌感染によって起こる乳房の炎症を乳腺炎と言います。赤く腫れ

たり、痛みや熱感を伴います。特に授乳期には、母乳が乳房内にたまりやすく炎症を引き起こしやすくなります。授乳期の乳汁分泌量が赤ちゃんの吸飲量より多いことが原因の一つです。

治療法はまず搾乳です。乳頭の問題がある場合には、乳



マンモグラフィーの矢印が乳がん

頭をつまみ出して赤ちゃんの乳汁吸飲を促します。赤ちゃんが乳汁をまったく吸飲しようとしないのであれば、乳房を冷やして乳汁分泌を止め、授乳をあきらめざるをえませ

乳腺炎が乳がん発症の原因となることはありません。妊娠授乳期乳がんとの鑑別が困難な場合もあります。

妊娠授乳期乳がん 妊娠の継続や出産・授乳によってがんの進行や再発に影響を与えることはない。マンモグラフィーは放射線を使うが、鉛板で腹部を保護すれば可能。しかし乳腺が非常に発達肥大しているため、マンモグラフィーでは診断困難なことが多い。妊娠授乳期はエコー診断が適している。

(阿知須共立病院診療部長、外科部長)

第2、4火曜日掲載